市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.16

2007.10.15

発行／NPO法人
市民活動サポートセンターいなぎ

事務局／〒206-0802
稲城市東長沼２１１２－１
稲城市地域振興プラザ１Ｆ
市民活動サポートセンター内
電話042-378-2112
FAX042-378-6971
E-mail:info@i-inagi-support.org
http://www.i-inagi-support.org/

●精神保健講座《ＮＰＯ講座特別編》●

心病む人たちと共に地域でくらすために

～不思議なレストランの実践～

だれだって人生の途中で心が疲れたり、
病気になることがあるはず。
心を病むことは
自分とかけ離れた世界のことではなく、
隣にあることだ。
もし自分の心が疲れてしまったとき、
休ませてくれる場と、
そのままのあなたでいいよと受け止めてくれる人と、
失敗してもいいよと試してみられるチャンスがあったら、
どんなにうれしいことだろう。

（クッキングハウスリーフレットから抜粋）

▲「おいしいね」から元気になる
レストラン活動

一人でも多くの心病む方たちが、快適に、自信をもって地域で暮らしていけることを願って、食事づくりで交流する場やふしぎなティールームの活動を通して「地域で助け合って共にくらす」ということは、具体的にどういうことなのか？

今、心の苦しい方も、家族や友人として、力になりたいと願っている方も是非ご参加ください。

■日　時：１１月１７日（土）　　１３：３０～１６：００
■場　所：稲城市地域振興プラザ４階　大会議室
■講　師：松浦幸子さん（クッキングハウス主宰／精神保健福祉士）
■参加費：３００円
■主　催（申込み・問合せ先）
市民活動サポートセンターいなぎ
☎０４２-３７８－２１１２（協働推進課内）
ＮＰＯふれあい広場ポーポーの木
☎／Fax０４２－３７９－３３７３

～参加者４００人を超える～

「アダプト制度」を活用した市民活動が広がっています

▲いつも花いっぱいの松の台広場（百村地区）

「アダプト制度」って耳慣れない言葉ですが、これはアメリカで、ハイウェイのボランティア清掃活動として始まった制度です。

アダプトは「養子縁組みをする」という意味で、市民が道路や水路、公園などの公共スペースを養子にし、行政に代わって愛情をもってめんどうをみるということなのです。

今では、公共施設の管理を行政が行うのが当たり前のようになっていますが、ごく近年までは地域住民が担っていた部分もたくさんありました。そして、そのことによって、公共施設に対する愛情が生まれたり、地域環境の向上やコミュニティの形成が図られていました。

そこで、そうした考え方にもとづき、公共施設の管理を市と協働しながら、市民が義務としてではなく、自らの活動と責任で行うというのがアダプト制度だと言えます。

★　　★

稲城市では、平成１４年８月からこの制度をスタートさせましたが、これまでに４８団体がこの活動に参加し、参加者数は４００人を超えています。

ではどんな活動が想定されているのでしょうか。市の要綱を見ると、①公共施設の緑化・美化・清掃②公共施設に対する愛護心の啓発③公共施設の改善提案及び実施④公共施設の破損等の通報などとなっています。

そして、実際には次のような取り組みが行われています。

＜植込み地の管理＞＜公共施設の落書き消し＞＜水路敷の管理と花植え＞＜植栽帯の管理と花植え＞＜池とその周辺の管理やめだかなどの飼育＞＜道路や散策路の清掃＞＜河川や用水のごみ収集＞＜市の緑化推進事業への協力＞など

★　　★

この制度を利用して活動を行うためには、まず市に参加者名簿と活動計画書を添えて申し込む必要があります。その後、双方が協議をし、合意ができたら合意書を取り交わして活動開始となります。

また、活動するにあたって市では、団体に対し、予算の範囲内で活動に必要な原材料を提供したり用具などを貸し出すことになっています。また傷害保険にも加入し、研修会も行われています。

★　　★

この活動に参加している松の台広場里親の会（会員１１人・毎週土曜日に活動）の豊間根さんは、「お互い顔をつき合わせることで近所との繋がりができました。また、通り掛かりの方が声をかけてくれるので励みにもなっています。以前はこの空き地、ちょっと物騒だったのですが、今は安全になり、ごみも捨てられなくなりました」とその活動の効果を語ってくれました。

★　　★

このようにアダプト制度は、最近よく言われる市民と行政との「協働によるまちづくり」の代表的な仕組みであるということができます。

自分たちもやってみたいと思われる方は、仲間を募ってぜひ稲城市都市建設部「緑と建設課」へご相談ください。

八月 「シニア海外ボランティア制度」のはなし

話し手：小山　良夫さん

今回は「シニア海外ボランティア制度」についてビデオ紹介とお話を伺いました。

ＪＩＣＡのボランティアは①青年海外協力隊②シニア海外ボランティア制度③日系社会青年ボランティア④日系社会シニアボランティアの４種類があるそうです。

シニア海外ボランティア（ＳＶ）は開発途上国で工業技術、中小企業育成、農村・地域開発教育、医療などのさまざまな分野で、すぐれた技術、知識、豊かな経験を持つ中高年層（４０～６９歳）の活躍が求められているとのことでした。

現在は５３か国に派遣、６５１人（内女性は９６人）が主に中南米、アジア、大洋州、中東などで活躍中だそうです。

ビデオで紹介された派遣中の方からは〈もう１度チャンスがあればチャレンジしたい〉〈家族のことはいつも気にしているし、家族との連絡は毎日している〉〈かけがえのない人生、何事も決断〉〈早期退職したが第二の人生を有意義なものにしたい〉〈国際交流の心はひとつ〉〈日系人の高齢者への介護福祉・・・共に生きよう〉といった意見が聞かれ、ＳＶとして充実した日々を過ごしている様子が分かりました。

（稲垣）

九月 「地球の反対側 チリで日本語教育」

話し手：松崎　克己さん

会社勤めの傍ら、稲城市の公民館で「外国人のための日本語教室」の講座を受講。その後決心し、教員検定試験を受け、資格を取得、６年間のボランティア活動を体験する。

退職後にＪＩＣＡのシニア海外ボランティアとして２年間チリで日本語を教えてこられた経験の持ち主。どのようなお話が伺えるか楽しみに、参加させて頂きました。

当日は、昨日来の台風一過、お天気に恵まれ、集う人は「昨日でなくてよかったですね」と挨拶を交わすなど、ほとんどの方が顔見知りらしく、最初から和やかな雰囲気がありました。

お話は自己紹介から始まりましたが、気が付いたときには教室の雰囲気で、先生の質問に参加者一同真剣に答えを口にしておりました。これは先生の手腕と受け取りましたが、講演者の一方的な話だけではなく、一緒に考えたり、発言を求めたりで会場の雰囲気は、いやが上にも盛り上がりました。

誰もが外国に対して、あこがれを抱いており、観光旅行では分かり得ないその国の気質や文化に触れたいと望んでおります。先生のお話を伺っているうちに、参加者全員、自分も、海外ボランティアとして、何か出来ないか、出来るのではないだろうかと、密かに考えを巡らしたのではないでしょうか。

（佐藤）

ガンバってます 13

子育てのための ネットワークグループ 「こぐまねっと」

代表：門脇るみさん

▲キッズルームで楽しく作業

取材の日は、サポートセンターのキッズルームで「こぐまねっと通信」の紙折りと配布の準備中でした。

平成１６年に中央公民館で行われた「子育てグループネットワーク連絡会」に参加したメンバー４人が発起人となり、翌年４月に自主活動グループとして発足。とりあえずすぐにできることからと、市内子育てグループの交流・情報交換の場となる通信を発行することになったそうです。通信は発行部数７３０部で月１回発行、仲間のネットワークで情報を集めているそうですが、カレンダーはいつも盛り沢山、子育て中の親子にはすぐに役立ちそう。また、先頭ページの“先輩ママの独り言”は毎回ユニークで楽しい。それについては「できるだけくだけた、分かりやすい文章で書くように努めています。子育てはみんな同じなのだと安心できるように・・・」とのことでした。

通信は手渡しのほか、公民館や子ども家庭支援センターなどにも置いてあるそうですが、引っ越してきたばかりなどで地域に仲間がいない子育てママのところにも、届いて欲しいと願って発行しているそうです。

会員数は現在１５人で、他にも月１回、編集作業をかねた情報交換会を行っているそうです。今後の抱負はとの問いに、「拠点の確保、講座の企画、保育士の派遣、子育てのコーディネート」とすぐに返事が返ってきました。

（小林）

NPO講座の予告

「グランドワーク三島」の実践に学ぶ

12月1日の午後に開催

かつては水の都だった三島市、しかし、1961年以降湧水の減少が進み、水辺環境は悪化、特に中心部を流れる源兵衛川にはごみが捨てられ、汚い川のシンボルになってしまいました。その状況を憂い、かつての美しい川、ふるさとの原風景を取り戻そうと立ち上がったのが「グランドワーク三島実行委員会（現NPO法人三島グランドワーク）」でした。

合言葉は「右手にスコップ左手にビール」「論議よりアクション」だという、そのユニークな活動に学ぶ講座を現地から講師をお招きして開催します。

詳細は後日広報いなぎ等でお知らせします。

午後7時～9時

金曜サロンスペシャル

■11月2日（金）

・話し手：藤田敏夫さん（百村在住）

・テーマ：「そばに懸ける半生」

市内でそば屋を営む話し手の藤田さんは、国産のそば粉にこだわり北海道や山梨でそばの栽培をしているといいます。

藤田さんのそばに懸ける思いを聞いてみませんか。

今後の予定

12月7日・1月11日・2月1日に予定しています。

詳細が決まり次第、広報いなぎ、ニュースレター、チラシなどでお知らせいたします。

また、市内在住・在職者でおもしろそうな話をしてくれそうな方がおりましたら、ぜひお知らせください。

理事会

ほうこく

8月27日 ……臨時理事会

- 事務局体制について
- 各プロジェクトの報告
- 議事
  ①吉川市からの視察について
  ②日野・多摩・稲城3市交流会について

9月10日 ……定例理事会

- 利用登録団体の承認
- 19年度予算について
- 各プロジェクトの報告
- 議事
  ①吉川市からの視察について
  ②日野・多摩・稲城3市交流会について

さる9月15日に今年度第1回目の利用登録団体交流会が行わました。それぞれから日頃の課題を出し合い、有意義な話し合いを行うことができました。

編集後記

今年は9月に入ってからも暑い日が続き、ここにきてやっと秋らしくなってきました。しかし、ホットできたのも束の間、今度は事業が目白押しで、担当スタッフは休む間もなく、その準備に追われています。

そんなスタッフの努力の成果を伝えようと、今回も頑張って発行しました。

ですから、このニュースレターを足掛かりに、一人でも多くの方にサポートセンターの活動に参加していただけたら、こんな嬉しいことはありません。

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・・・年会費3,000円